

梅毒対策強化パイロット調査の実施について（案）

令和 8 年 2 月 2 日

薬務感染症対策課

1 目 的

梅毒患者の報告数は全国的に急増しており、本県においても、令和元年から年々増加し、令和 5 年には過去最多、令和 6 年もほぼ横ばいで推移し、報告数は 10 年前と比較して約 15 倍となっている。

しかし、県内において、梅毒の届出件数の増加に影響を与えている背景や感染者の特徴、詳細な感染経路は明らかになっていない。

そこで、今回、梅毒発生届に追加して、詳細な疫学情報の把握を行うことにより、患者の属性や流行の要因分析を行い、県内において、今後、優先して取り組むべき感染拡大予防策（効果的な予防啓発と検査受診の促進の方策）を検討することを目的として、感染症法第 15 条に基づく積極的疫学調査として追加調査を実施する。

2 調査対象者

本調査は、梅毒の診断を受けた者に対して実施する。

3 追加把握項目

職業、受診動機、性感染症の既往歴、患者が推定する感染源、パートナー（検査・妊娠）、HIV 検査

4 実施機関と役割

（1）医療機関

医師は梅毒と診断した場合に、患者へ追加調査について説明し協力を依頼し、調査票（様式 2）による聞き取りを行う。結果について、梅毒の発生届の際に、感染症サーベイランスシステム（以下「システム」）への入力を行う。なお、システム入力が困難な場合には、FAX により管轄保健所へ提出する（様式 1、様式 2）。

（2）保健所

追加調査の報告内容に不備がある場合は、届出医師へ確認し、システムへ入力する。

FAX により医療機関から調査票を受け取った保健所は、システムへ代行入力を行う。

（3）薬務感染症対策課

医療機関及び保健所が入力した調査結果を集約し、患者の属性や流行の要因分析を行う。

分析結果等を基に、県内の梅毒対策に係る方針について、検討する。

5 調査期間

令和 8 年 4 月 1 日 ～令和 9 年 3 月 31 日（1 年間）

6 実施までの流れ（予定含む）

時 期	内 容
令和 7 年 10 月 ～12 月	県医師会役員への御相談（10/28） 産婦人科医会（11/18）、皮膚科医会（12/3）、泌尿器科医会への御相談（12/17）
令和 8 年 1 月	保健所長会への事業説明（1/16）
2 月	発生動向調査委員会委員への事業説明（2/2）
3 月	医療機関への依頼文書発出
4 月	パイロット調査の開始

梅毒発生届

資料 4

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項（同条第 10 項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 令和 年 月 日

医師の氏名
従事する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地(※)
電話番号(※) () -

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断（検案）した者（死体）の類型				
・患者（確定例） ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体				
2 性別		3 診断時の年齢（0 歳は月齢）		
男 ・ 女		歳（ か月）		
病 型				
1 1 感染原因・感染経路・感染地域				
① 病型				
1) 早期顕症梅毒(Ⅶ、Ⅰ期Ⅰ、Ⅱ期) 2) 晩期顕症梅毒、 3) 先天梅毒、4) 無症候（無症状病原体保有者）				
② HIV感染症合併の有無				
1) 有 2) 無 3) 不明				
4 症 状				
・初期硬結（性器、肛門、口唇、口腔咽頭、その他（ ）） ・硬性下疳（性器、肛門、口唇、口腔咽頭、その他（ ）） ・鼠径リンパ節腫脹（無痛性） ・梅毒性バラ疹 ・丘疹性梅毒疹 ・扁平コンジローマ ・ゴム腫 ・心血管症状 ・神経症状 ・眼症状 ・骨軟骨炎 ・実質性角膜炎 ・感音性難聴 ・Hutchinson 歯 ・その他（ ） ・なし				
5 診断方法				
① 患者（確定例）の場合				
・病変からの病原体の検出（染色法、PCR 検査） ・次の 1)、2) の両方の抗体検査による血清抗体の検出				
1) カルジオリピンを抗原とする検査 2) <i>T. pallidum</i> を抗原とする検査				
② 無症状病原体保有者の場合				
・次の 1)、2) の両方の抗体検査による血清抗体の検出				
1) カルジオリピンを抗原とする検査 (抗体価を記載、16 倍相当以上が必要) 結果：(倍、R.U.、U 又は SU/ml)				
2) <i>T. pallidum</i> を抗原とする検査				
・その他の検査方法（ ） 検体（ ） 結果（ ）				
6 初診年月日 令和 年 月 日				
7 診断（検案(※)）年月日 令和 年 月 日				
8 感染したと推定される年月日 令和 年 月 日				
9 発病年月日（*） 令和 年 月 日				
10 死亡年月日（※） 令和 年 月 日				
① 感染原因・感染経路（ 確定・推定 ）				
1 性的接触 (A. 性交 B. 経口) (ア. 同性間 イ. 異性間 ウ. 不明) (性風俗産業の従事歴（直近 6 か月以内） 1) 有 2) 無 3) 不明) (性風俗産業の利用歴（直近 6 か月以内） 1) 有 2) 無 3) 不明)				
2 静注薬物使用				
3 母子感染（ア. 胎内・出産時 イ. 母乳）				
4 輸血・血液製剤 (輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況：)				
5 その他（ ）				
6 不明				
② 感染地域（ 確定 ・ 推定 ）				
1 日本国内（ 都道府県 市区町村）				
2 国外 (国名：) 詳細地域：)				
3 不明				
③ 過去の治療歴				
1) 1 年より前 2) 1 年以内 3) なし 4) 不明				
1 2 感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために必要な事項として厚生労働大臣が定める事項				
・妊娠の有無				
1) 有（ 週） 2) 無 3) 不明				

この届出は診断から 7 日以内に行ってください

(1, 2, 4, 5, 11, 12 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6 から 10 欄は年齢、年月日を記入すること。
(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。
(*) 欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。
4, 5 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

梅毒 調査票 (案)

様式 2

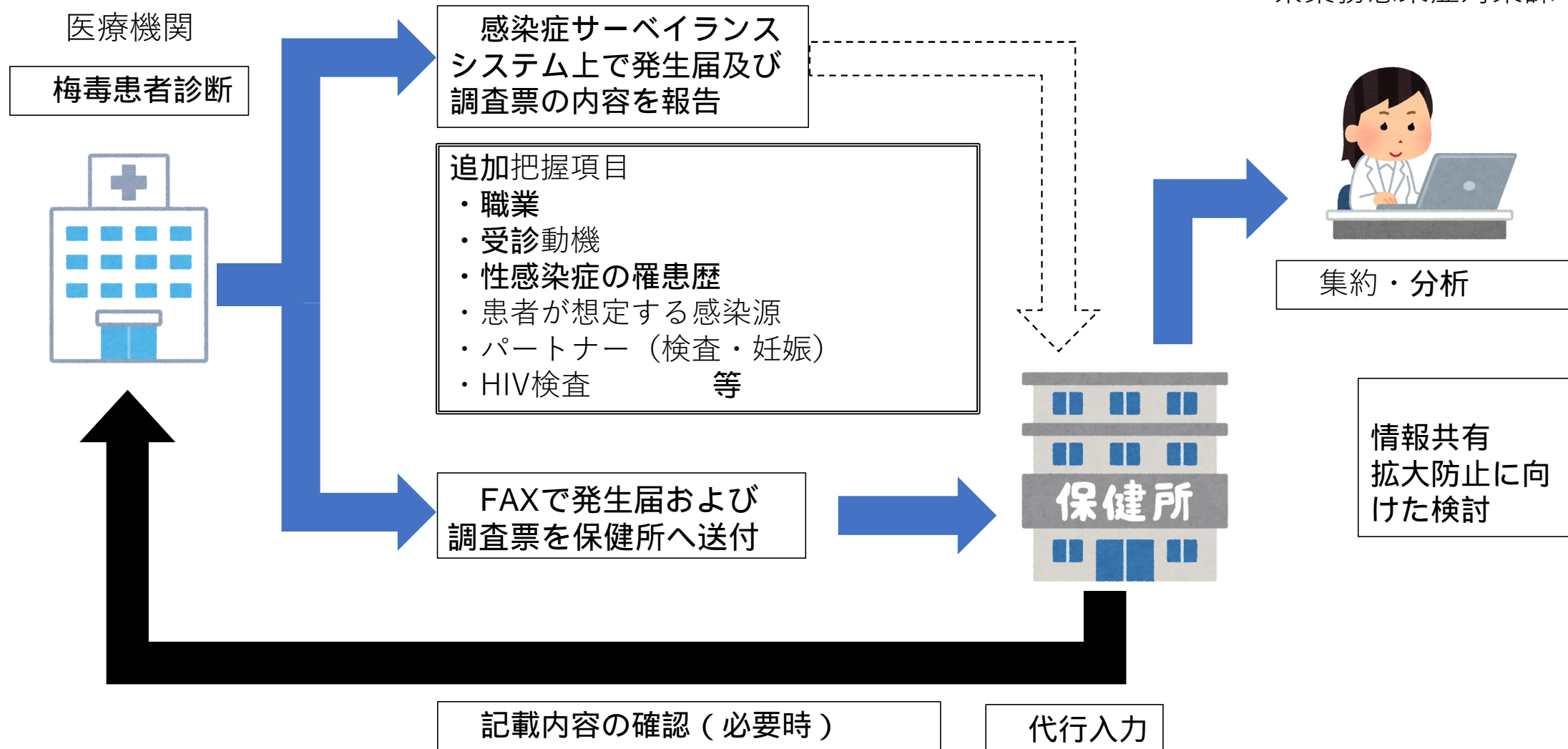
県内の梅毒の発生動向を把握し対策に活用するため、感染症法第 15 条に基づく積極的疫学調査の一環として情報提供にご協力をお願いします。

梅毒と診断した場合に、患者へ追加調査について協力を依頼の上、本調査票の内容について聞き取りを行っていただき、保健所に発生届を提出する際に添付してください。

届出医療機関		届出日	令和	年	月	日
問1 居住地 1. 県内（市町名： ） 2. 県外（都道府県名： ） 3. 国外（国名： ） 4. 不明		問5 性感染症の罹患歴 ※複数選択可 1. なし 2. 梅毒 3. 性器クラミジア感染症 （咽頭病変も含む） 4. 性器ヘルペスウイルス感染症 5. 淋菌感染症 6. 尖圭コンジローマ 7. B型肝炎 8. その他 9. 不明				
問2 職業 1. 会社員・自営業 2. 風俗等 3. 学生 4. 無職 5. その他 6. 不明		問6 性的接触のあった相手 ※複数選択可 1. 特定のパートナー（配偶者や恋人） 2. パートナー以外の特定の相手 3. 性風俗産業従事者 4. 性風俗産業利用者 5. マッチングアプリ、SNS で知り合った その場限りの相手 6. マッチングアプリ、SNS 以外で知り合 ったその場限りの相手 7. 不特定多数の相手 8. その他				
問3 受診（検査）理由 ※複数選択可 1. 有症状 2. 妊婦健診で陽性 3. 保健所の検査で陽性 4. 他の疾患の治療の過程（術前検査等） で陽性 5. 梅毒陽性者（または感染の疑いがある 者）との性行為 6. 検査キットで陽性 7. 感染の不安 8. 献血で陽性 9. 出産 10. その他 11. 不明		問7 パートナーの梅毒検査 1. 未実施（勧奨した） 2. 未実施（勧奨せず） 3. 実施（陽性） 4. 実施（陰性）				
問4 梅毒検査の理由（認識について） 1. 本人が梅毒を疑っていた 2. 本人は梅毒を疑っていなかった （知らなかった） 3. 不明		問8 パートナーの妊娠の有無 ※男性患者のみ 1. あり 2. なし 3. 不明				
		問9 HIV検査 1. 未実施 2. 実施（陽性） 3. 実施（陰性） 4. 検査中 5. 検査予定				

イメージ

県薬務感染症対策課



梅毒の追加調査に係る報告方法について

診断から届出までの流れ

感染症サーベイランスシステムで報告する場合

- ① 患者へ追加調査について説明し協力を依頼(同意書不要)
- ② 協力の可否について発生届の下段へ記載(協力不可の場合は調査票の提出は不要)
- ③ 協力可能な場合は、調査票の内容について聞き取り
※可能な限りすべての項目を確認
本人が回答を拒む内容については無理に聞き取らず空欄で回答
- ④ 発生届に必要な内容(症状や感染経路等)を入力
- ⑤ 調査票の内容については、感染症サーベイランスシステムに入力する項目が無い場合、県ホームページ(梅毒について)に掲載されている「入力用ひな型(Word)」の内容をコピーし、発生届の「13備考(医療機関用)」欄へ貼り付け、該当項目以外は削除

梅毒

発生日時点の様式表示中

報告日時点の様式表示

過去の報告項目全てを表示

ID情報

画面印刷

変更履歴

報告ステータス 確認済

ページ内リンク

診断時の草稿

12 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

自由記述

☐ 任意の可読・文法のみ

- ☐ 有(語)
- ☐ 無
- ☐ 不明

13 備考

医師機関用

こちらに貼り付け

保健所用

診断から届出までの流れ

FAXで報告する場合

① 患者へ追加調査について説明し協力を依頼(同意書不要)

② 協力可能な場合は、調査票の内容について聞き取り

※可能な限りすべての項目を確認

本人が回答を拒む内容については無理に聞き取らず空欄で回答

③ 発生届および調査票を管轄保健所へFAXで提出